

日々育つ野菜の変化に気づく。 それが幸せ。



「あさのいち」にはネギ、キャベツなどを出す予定。「新鮮な野菜を味わってほしいですね」と笑顔。



たじま けんたろう
田島 健太郎さん

(紫峰ヶ丘 / 35歳)

SEから農家へ異色の転身

「気ままな田舎暮らしに憧れて」。農業をやろうと思ったきっかけをそう話す田島さん。就農する前は、東京都内でSE（システムエンジニア）を5年ほどやっていたといいます。

元々、山登りやバイク、温泉めぐりが趣味。時間を見つけては日本各地に出かけ、その土地の自然と触れ合うことが何より好きだったと話します。学生時代から、漠然とした農業への憧れがあり、SEになつてからもその気持ちは変わらず、28歳のときに農業法人に転職。そこで3年間、野菜作りを学びました。

「思ってたとおりに面白くて。体を使うし、ああ、働くってこういうことか、って感じましたね」と念願叶った田島さん。

その後、縁あって市内・南太田の畑を借りることができ、独

立。現在はキャベツやネギ、ブロッコリー、ピーマン、ナス、ズッキーニなどの野菜をつくっており、ネギは給食用にも出荷しています。

常に新しい技術を探求

独立して2年。農業法人で働いていた時の経験を活かしつつ、常にアンテナを張り、新しい技術を学び取り入れているといいます。4Hクラブに入ったきっかけは知人の紹介。「メンバーはそれぞれ違う農作物を育てているので、持っている情報が違う。それを交換し合えるのがいいですね」と話します。

目下の悩みは、人手不足。野菜の栽培から収穫、出荷まで一人で作業しているため、繁忙期は深夜まで作業することも。

「実は農業をまくこと自体も手間がかかるんです。それであれば、まかずに済む方法を取り入れて手間を省きたい」と、農薬を減らす栽培にも取り組んでいます。

田島さんに農業のやりがいを尋ねると「やっぱり、自然の中で働いているのが楽しいです」と笑顔が返ってきました。「野菜を食べた人においしいと言ってもらえると、やっててよかったなと思います」。